

# 甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（前期）

平成21年 7月15日 作成

校長 相川 芳廣

記述者 職名（教頭） 古屋 宗久

## 学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- ・よく考える子ども（自分の考えを持って）
- ・思いやりのある子ども（相手の立場を考えて）
- ・進んで働く子ども（働く喜びを持って）
- ・あいさつのできる子ども（気持ちよいあいさつを、進んで）
- ・健康で元気な子ども（生活の中に、運動習慣を）

## 学校経営方針

・今まで培った伝統と地域の特性や子どもの実態を踏まえ、特色ある教育課程を編成し、教職員の共通理解と、家庭・地域との連携の下、ゆとりと創意ある教育活動の推進に努め、21世紀をたくましく生きる力を持った、人間性豊かな子どもの育成を図る。

## 1 全体評価

- ・教職員による自己評価においては、どの項目においてもAないしB評価であり、高い肯定率を示している。
- ・昨年度と同様、学校教育目標が職員によく理解されており、学校経営方針に沿った教育活動が展開されていることが見て取れる。
- ・昨年度との比較においては、A評価の割合が減り、B評価が増えた項目が多くなっている。理由としては、職員の異動数が多く、調査までの勤務日数が浅いために「中心化傾向（消極的な肯定）」が見られたことが考えられる。
- ・教師の自己評価においては、51項目すべてにおいてD評価はまったくなかった。
- ・C評価のついた項目は、I⑦、II①⑨、III⑥、III⑨、IV③、V②③④⑧、VI③⑥の12項目であるが、その人数は1名ないし2名である。
- ・C評価をつけた職員も、学校ないし個人の課題をきちんと把握しており、具体的な改善策をもって後期の教育活動に臨もうとしている。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

- ・ほとんどの項目で、100%の肯定評価を受けているが、昨年度と比較して見るとA評価が減りB評価が増えた項目が目立つ。特にI④の項目は顕著である。
- ・教職員の数が少ないため、一人一人の分掌が多く、PDCAサイクルの重要性は十分理解しているが、チェックに不安を感じている。
- ・昨年度と同様、チェック後のアクションの部分に課題がある。慌ただしさのなかで、PDCAサイクルを活かしきれていない面がある。
- ・C評価のあったI⑦については、多忙さを主な理由にあげていた。

改善策

- ・異動間もない教員も、個人の段階においてPDCAサイクルを意識し、具体的な行動計画を作成し、後期の教育活動に臨む。
- ・厚生部を中心とした厚生活動や、教職員のメンタルヘルスについて一層気配り目配りをしお互いに支え合いながら、働きやすい職場づくりに努める。

<b>II 学校運営について</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体には、肯定的な評価が多く、おおむね良好な結果であるといえる。特に、II⑦の項目は、A評価が100%であり、職務上の「報告、連絡、相談、確認」が確実に行われていることがわかる。職員の意識の向上が見られる。小さい職場ということもあるが、少人数であればなおさら確実にやっていきたい。</li> <li>・危機管理マニュアルの理解、校内研究への主体的な参加、特別支援教育への協力等の項目は、A評価よりB評価の割合が高く、「日々の仕事に追われる」「クラスの仕事で手一杯」等時間確保の問題があがっている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルについては、一昨年度からあがっている課題である。B評価が多いということは、およその内容は理解していると思われる。防犯・防災・事件・事故等マニュアルの種類も多く、ケースバイケースの対応もせまられるため、訓練の方法を多様化するなどの取組をすすめる。また、時間の確保については、仕事の効率化を進めると同時に、お互いにフォローする体制や会議の精選もすすめる必要がある。</li> </ul>
<b>III 学習指導について（児童用アンケートも含めて）</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が「基礎、基本の定着を図る授業を行っている」の項目でA評価をしており、新学習指導要領の改訂を受け、学力の重要な要素である基礎的・基本的な知識・技能の習得に力を注いでいることが分かる。</li> <li>・児童のアンケートから「学校の授業が楽しい」「先生は分かりやすく教えてくれる」「授業が分かる」の各項目は、A評価B評価の肯定的な回答が9割を超えている。</li> <li>・「評価基準と評価方法を明確にした授業を行っている」は、全員がB評価をしており、昨年度あったC評価がなくなった。</li> <li>・「年間計画に基づいた実施時数を確保できるように努めている」は、A評価が8割を超えており、授業時数を積極的に確保していることが実績簿の数値からもわかる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品等の活用が不十分という声も上がっている。教具の研究も含め、長期の休業中に個々が取り組むようにする。また、教具教材についての情報交換も行う。</li> <li>・教員は、個に配慮（応じた）指導に心がけているが、児童は、発言や質問が言いにくいと（言えない）と答えた子が2割程度いた。今年の校内研究のテーマ「よく考え、進んで発表する児童の育成」の達成に向けて、2学期以降も校内研究会を中心にした共同研究と授業実践を重ねていきたい。</li> </ul>
<b>IV 生徒指導について（児童用アンケートも含めて）</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導については、「生き方教育」以外はすべてA評価B評価であり、生徒指導に対する職員の意識は高い。特に職員間で生徒指導上の課題を共有し対応する項目で、A評価が増えている。生徒指導委員会を全職員参加にしたことが影響していると思われる。</li> <li>・児童のアンケートから、学校、学級に対する満足度は高く、楽しく学校生活を送っていることが伺える。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き方教育（キャリア教育）については、具体的にどんな活動や指導ができて自信をもてない教師もいる。まずは、全体計画を作成して、各学年の活動や指導をあきらかにする必要がある。</li> <li>・全校体制で生徒指導を行うために、担任や担当まかせにすることなく、今後も全職員の共通理解を図り共同体制で行っていく。</li> </ul>
<b>V 地域との連携について</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携の項目においても、ほとんどがA評価B評価で、教員一人一人が積極的に地域と関わりを持とうと、取り組んでいることが分かる。</li> <li>・児童の登下校の安全確保の取組を含め、地域の方から多くの協力をいただいている。</li> <li>・ホームページやおたよりを通して、情報の発信を積極的に行っている。</li> </ul>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異動間もない教員は、父母・地域の方々と積極的に関わり、コミュニケーションを図るよう努力する。</li> <li>・学校からの情報発信はもちろん、父母、地域からの要望や意見が集まりやすい開かれた学校づくりに一層努力する。</li> </ul>
<b>VI 学校の特色に関して</b>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から教育課程に正式に位置づけられた外国語活動への取組において、ALTと協力して成果が上がるように努めている。</li> <li>・9割以上の子が読書を好きと答えている。朝の読書活動のよい影響が現れている。今後、教師の読み聞かせや委員会の活動など継続し、親子読書など家庭の協力も呼びかけていきたい。</li> </ul>
<b>3 まとめ</b> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実践の積み重ねで、子ども達のアンケート結果は、昨年度よりもよくなった項目が目立った。特に、授業に関するもの「授業が楽しい」「授業がわかる」「わかりやすく教えてくれる」と言った項目のA評価が増えている。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の定数減に伴う個々の分掌の増加により、多忙感は否めない。今の敷島北小学校の児童に必要な力は何なのか？再検討し、後期の教育活動に当たりたい。</li> <li>・C評価D評価を書いた児童はゼロではない。アンケート結果は全体の数字である。これからも私たちは児童一人一人に焦点をあて、個に応じた指導に力を尽くしていこうと思う。</li> <li>・開かれた学校をさらに目指すため、地域にも開放する学校開放日の設定や働いている保護者にもっと来校してもらいやすいように日曜日の授業参観なども考えて行きたい。</li> </ul>	